

NPO法人森づくりフォーラム
2019-2021
中期計画 進捗報告
2021.5.22-5.23

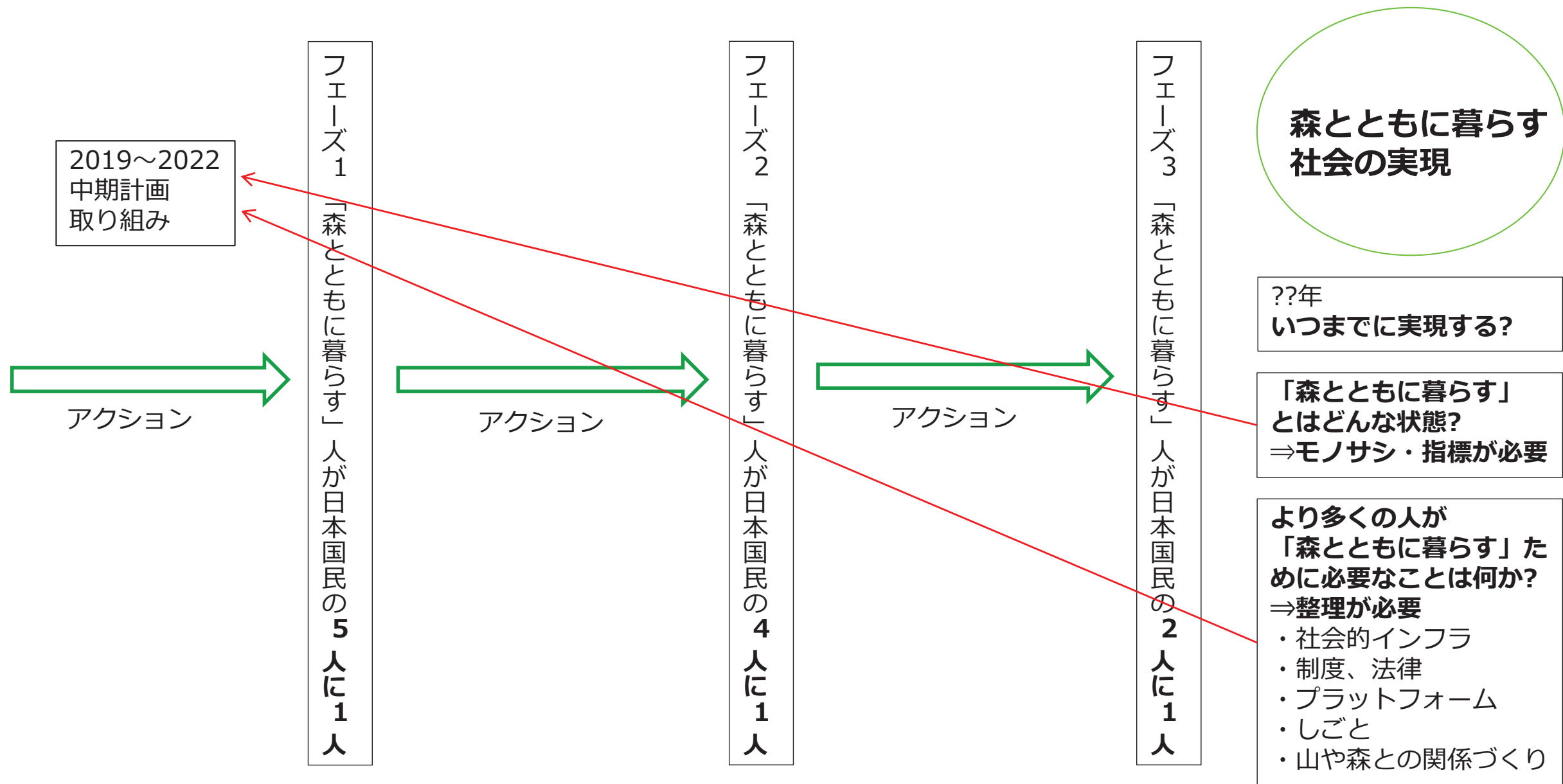


目次

1	ミッション達成に向けたロードマップ	3P
2	ミッションの実現に向けた3カ年の重点的取り組み	4P – 10P
3	事業収支計画	11P – 13P
4	寄付・会員・参加者等 成果計画	14P - 17P
5	指標づくりについて（2020年4月版）	18P – 38P
6	参考資料（ロジックモデル2020ver、活動史など）	38P – 49P

1 ミッション実現に向けたロードマップ

森フォオの活動・森林・林業関係者の取り組み・社会状況変化



2 ミッションの実現に向けた3カ年の重点的取り組み

「森とともに暮らす社会」の実現に向け、
2019年から2022年にかけて
主体的に森と関わる市民・地域住民を増やすため、
A～Cの重点的に取り組む分野を明確に打ち出します。

A. 指標づくり

B. ネットワークの強化・活用

C. 組織基盤の強化

2-1 ミッションの実現に向けた3力年の重点的取り組み

A. 指標づくり

「森とともに暮らす社会」とはどんな状態になったら達成されたといえるのか。
その達成指標を作成し、ミッションの達成度を測定可能なものにする。

N O	施策	事業枠	実施スケジュール・期限							
			19年度 内容	成果指標	19成果	20年度 内容	成果指標	20成果	21年度	成果指標
1	・ 指標項目の作成、公開 ・ 指標に基づいた調査測定の実施 ・ 関連する世論調査・統計情報等の収集	自主事業	指標案の作成、調査手法検討、森づくり活動参加者への調査実施、ロジックモデル案の作成、勉強会参加	・ 指標項目 ・ 調査方法測定結果の公開	・ 指標項目の作成 ・ ロジックモデル案の作成 ・ インパクトマネジメント研修への参加1回	調査の測定結果公表、外部団体・異業種へのヒアリング、ロジックモデル案の修正・作成 経年比較調査の実施	・ 測定結果の公開 ・ ヒアリング報告	・ SDG s 調査実施（回答99団体） ・ ロジックモデル案の修正	測定に関する参考情報作成・公表、成果指標案の作成	・ 参考情報の公開 ・ 指標案の作成1
2	森林の「関係人口」マッピング	助成事業 自主事業				マップ案デザイン作成、各種情報収集	マップ作成	各種情報収集	関係人口マップ公表、意見交換	マップ公開

2-2 ミッションの実現に向けた3力年の重点的取り組み

B. ネットワークの強化・活用

これまでの活動を通じて蓄積したネットワークというリソースを活かし、また拡充することで以下①～③の施策を実施する。

- ① ネットワークの中心的役割としての森づくり活動団体支援
- ② 研究者、森林・林業関係者との協働による
政策提言・調査研究
- ③ 市民・地域住民に向けた普及啓発

2-3 ミッションの実現に向けた3力年の重点的取り組み

B. ネットワークの強化・活用

① ネットワークの中心的役割としての森づくり団体サポート強化

森づくり団体をサポートするための情報発信・収集を通じて、安全かつ継続的な活動を拡大し、森づくり活動団体および各地域での社会的課題解決するために以下を行う。

N O	施策	事業 枠	実施スケジュール内容・期限							
			19年度 内容	成果指標	19成果	2020年 内容	成果指標	20成果	2021年 内容	成果指標
1	森づくり活動団体・ 団体会員へのサポ ート強化	自主 事業 助成 事業	WEB・活動レポー トでの会員情報発 信強化、 意見交換会の実施	記事掲載 4 意見交換 1	記事掲載 4 意見交換 1	WEB・活動レポー トでの団体会員情報 発信強化、関連 WEBページのアッ プデート	記事掲載 4	記事掲載 4	WEB・活動レポートでの 団体会員情報発信強化、 関連WEBページのアッ プデート	記事掲載 4
2	グリーンボランティ ア保険サービス改 善・利便性向上	自主 事業	LPO（ページの最 適化）、 WEB登録促進、 年間精算試験導入 団体追加	登録団体 数 750	登録団体 数624	賠償責任部分の引下 げ検討、年間精算団 体追加、WEB登録 促進	登録団体 数 850	登録団体 数 607	加入依頼手続きの簡素化、 効率化、見直し検討	登録団体 数 1000
3	事故防止・安全対策 の普及啓発、技術向 上に向けた支援施策	助成 事業	安全対策テキスト 作成検討、FLCと の運営体制強化に 向けた協議実施	記事掲載 3	記事掲載 5	安全対策テキスト配 布、WEB上安全普 及啓発情報発信強化	テキスト 1 記事掲載 3	安全研修 2 記事掲載 2	安全技術研修の実施、 WEB上での安全普及啓発 情報発信強化	研修1 記事掲載 3
4	活動に役立つガイ ド・ツール等の販売 目的のWEBショッ プ運用	自主 事業	トピックス号など 自商品のWEBストア、イベントでの 販売促進	販売売上 15万円	販売売上 8.6万円	トピックス号など自 商品のWEBストア、 イベントでの販売促 進	販売売上 15万円	販売売上 2,169円	トピックス号など自商品 のWEBストア、イベン トでの販売促進、その他 ツール販売の検討・実施	販売売上 15万円

2-4 ミッションの実現に向けた3力年の重点的取り組み

B. ネットワークの強化・活用

② 研究者、森林・林業関係者とのネットワークによる政策提言・調査研究

森林に関わるこれからの社会動向の把握、分析のため、また森に関わるステークホルダーとの協働に向けた今後の指針や計画作成のために、以下を行う。

N O	施策	事業 枠	実施スケジュール内容・期限							
			19年度 内容	成果指標	19成果	20年度 内容	成果指標	20成果	21年年度 内容	成果指標
1	議論の場づくり、パブリックコメント等の発信	助成事業	議論の場づくり・話題提供（WEB上、実施講座）、森林・林業周辺の社会的課題、動向の整理（森林環境税等）	議論の場1 話題提供1	議論の場1 話題提供1 （森林環境税シンポ実施）	議論の場づくり・話題提供、パブリックコメント発信に向けた検討実施	議論の場2 話題提供1	議論の場1 意見提案1 （森林・林業基本計画意見）	議論の場づくり・話題提供、森づくりに関するパブリックコメント対応実施	議論の場2 話題提供1 パブコメ1
2	森林社会学研究会を通じた、情報収集・発信、調査研究	助成事業	研究会連続講座運営、トピックス特集号の制作・販売	講座実施4 参加者120 トピックス号 2冊	講座実施4 参加者190 トピックス号 1冊	研究会連続講座運営、トピックス号の制作・販売	講座実施4 参加者120 トピックス号 2冊	講座実施3 参加者6,081	研究会連続講座運営、トピックス号の制作・販売	講座実施 4 参加者120 トピックス号 2冊

2-5 ミッションの実現に向けた3力年の重点的取り組み

B. ネットワークの強化・活用

③市民・地域住民に向けた普及啓発

多くの市民に森の機能・価値への理解を促し、森に関わることの大切さや楽しさを伝え、森との関係をつくるきっかけを提供するために以下を行う。

N O	施策	事業 枠	実施スケジュール内容・期限							成果指標
			19年度 内容	成果指標	19成果	2020年	成果指標	20成果	2021年	
1	体験プログラムの実施・提案、自治体との連携強化、協働企画検討	自主、助成事業	森づくり体験会の実施、関係自治体ヒアリングの実施、事業案の検討	実施回数 7 参加者 100 事業案 1	実施回数 8 参加者174 自治体ヒアリング3	森づくり体験会の実施、森林環境税活用事業の提案	実施回数 7 参加者 100 事業案 1	実施回数 4 参加者 49 事業案1	森づくり体験会の実施、森林環境税活用事業の実施（森林ツアー等）	実施回数 7 参加者 100 事業案 1
2	農山村住民を対象とした都市との交流・意見交換	助成事業	全国の集いin静岡実施、運営サポート	参加者 300	参加 416 （静岡回）	全国の集いin東京 企画運営、実施	参加者 350	参加者 889	全国の集い（地方開催）実施、運営サポート	参加者 300
3	フィールド事業活性化に向けた施策	助成事業	フィールド事業体制の変更各長期計画の検討、活動成果の視覚化、参加者集めの促進	活動参加 1100 活動成果表 1	活動参加 1161	さがみの森ガイドブック配布、各長期計画の作成、参加者集めの促進	活動参加 1100 ガイドブック配布 1,000	活動参加 158 ガイドブック配布 427	各長期計画の作成、参加者集めの促進	活動参加者 1100 長期計画表 1
4	PR強化による参加者増、認知向上への施策	自主事業	SNS運用強化、パンフ配布強化、情報受信者データベース作成	配布 2,000 データベース 1	配布 1,000 フォロー数 10,707	SNS運用強化、動画ツール運用検討、メルマガ運用改善	フォロー数 9,000	フォロー数 12,907	SNS運用強化、パンフのアップデート検討、動画ツール運用検討	
5	内山代表やその他理事の情報積極発信	自主事業	内山ライブラリー更新定期化	記事 24	記事15	内山ライブラリー更新、他理事の情報発信	記事 24	記事10	内山ライブラリー更新、他理事の情報発信	記事 24

2-6 ミッションの実現に向けた3力年の重点的取り組み

C. 組織基盤の強化

ミッション達成への取り組みを一層加速、拡大させるために、
組織基盤を強化する。また持続的な運営に向けた財政基盤を構築するために以下を行う。

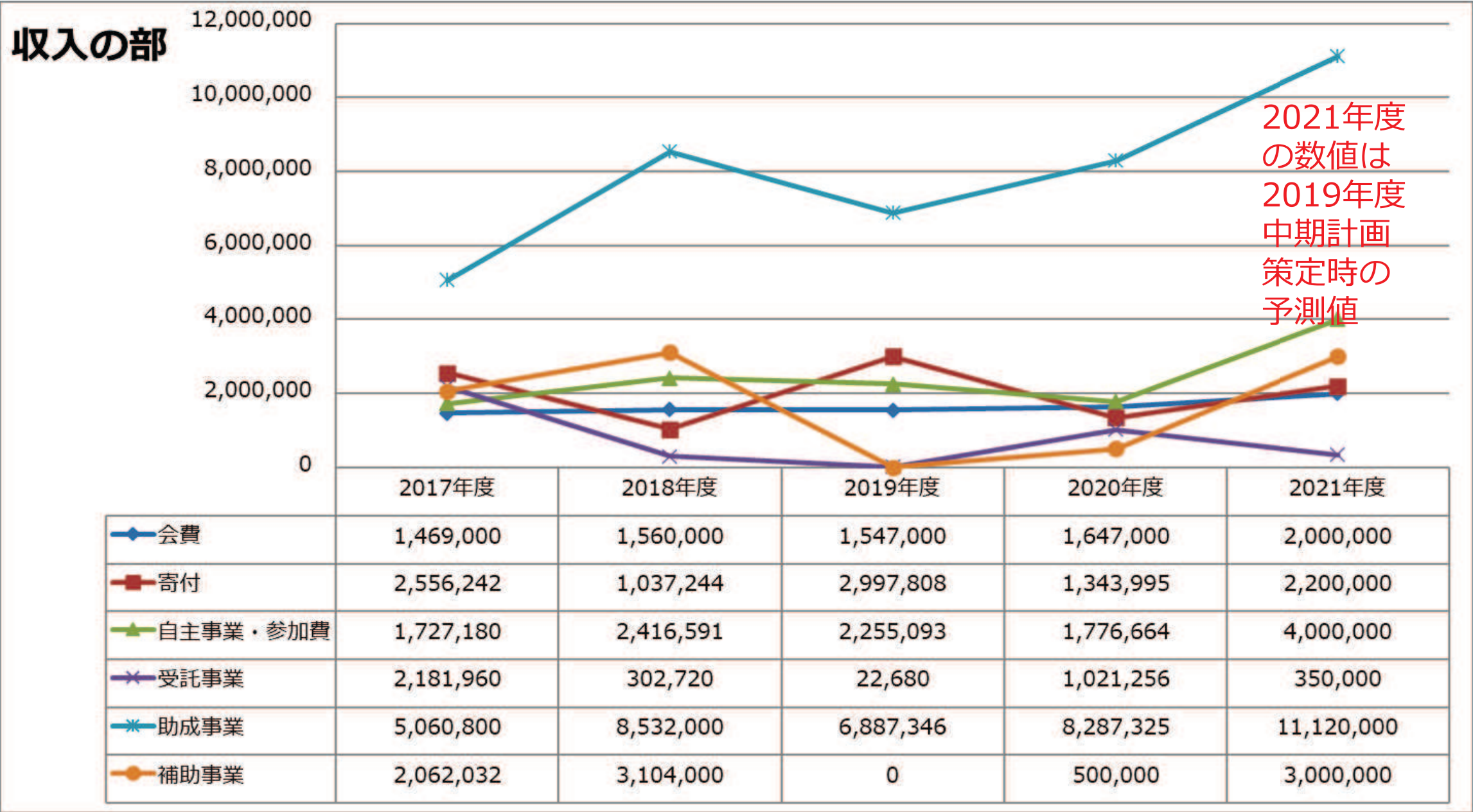
NO	施策	実施スケジュール内容・期限							
		2019年	成果指標	19成果	2020年	成果指標	20成果	2021年	成果指標
1	事務局基盤強化・人材育成	事業マニュアル整備、運営関係研修・ワークショップへの参加、インターンシップの導入検討	マニュアル3 研修等の参加4	マニュアル1 研修参加3 インターン1	事業マニュアル整備、インターン生導入、組織運営研修等への参加	マニュアル3 研修等の参加4 インターン1	研修参加1 インターン1	事業マニュアル整備、インターン生導入、組織運営研修等への参加	マニュアル3 研修等の参加4 インターン1
2	ファンドレイジング施策検討と実施	寄付用途の検討、ターゲット明確化、ドナージャーニーの作成、プロボノ活用、寄付ツールの役割整理、寄付キャンペーンの実施	ドナージャーニー1 キャンペーン1 寄付150万円	ドナージャーニー1 キャンペーン1 寄付額299万円	寄付者分析、ドナージャーニーの見直し、既存会員への働きかけ、寄付キャンペーンの実施	ドナージャーニー1 キャンペーン1 寄付額150万円	寄付額86万円 プロボノ1	WEB寄付ページのアップデート、寄付キャンペーンの実施、既存会員への働きかけ	キャンペーン1 寄付額150万円
3	会員増加のための施策検討と実施	関係者データベース化、WEB経由入会促進、各講座・活動参加者への入会促進、会員特典の見直し	DB1 新規入会20	仮DB1 新規入会36	関係者データベース化、WEB経由入会促進、各講座・活動参加者への入会促進、会員特典の見直し	DB1 新規入会20	新規入会45	WEB経由入会促進、各講座・活動参加者への入会促進、特典内容の見直し	新規入会20 「7会員・参加者等 成果計画」参照
4	認定NPO法人の取得検討				認定取得に関わる条件手続き、業務の整理、会員制度見直し	会員制度変更案1 認定取得サポート団体と協議1	会員制度変更の検討	認定サポート団体との連携、認定継続のための長期計画検討	会員制度変更案1 認定取得サポート団体と協議1

3 事業収支計画

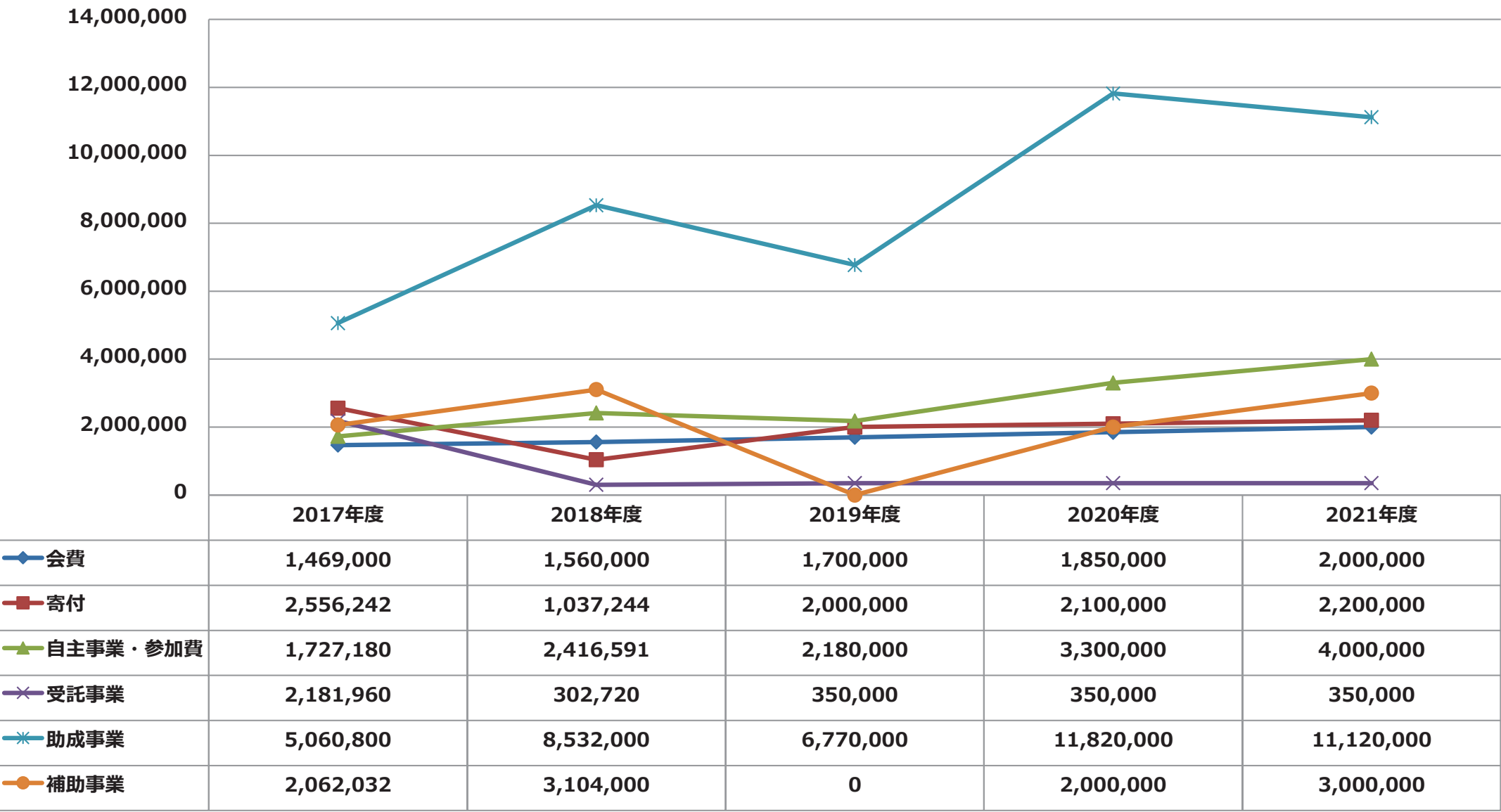
<事業収支 計画概要>

- ・ 自主事業（グリーンボランティア保険・参加費収益その他）による収益拡大をめざす。
- ・ 予算規模300～400万円 の新規事業計画を立て、実施する。
- ・ 全国の集い事務局運営を継続する。
- ・ 寄付金収入 3か年平均100万円 の安定化をめざす。
- ・ 「森づくり活動実態調査」に関する事業を継続する。

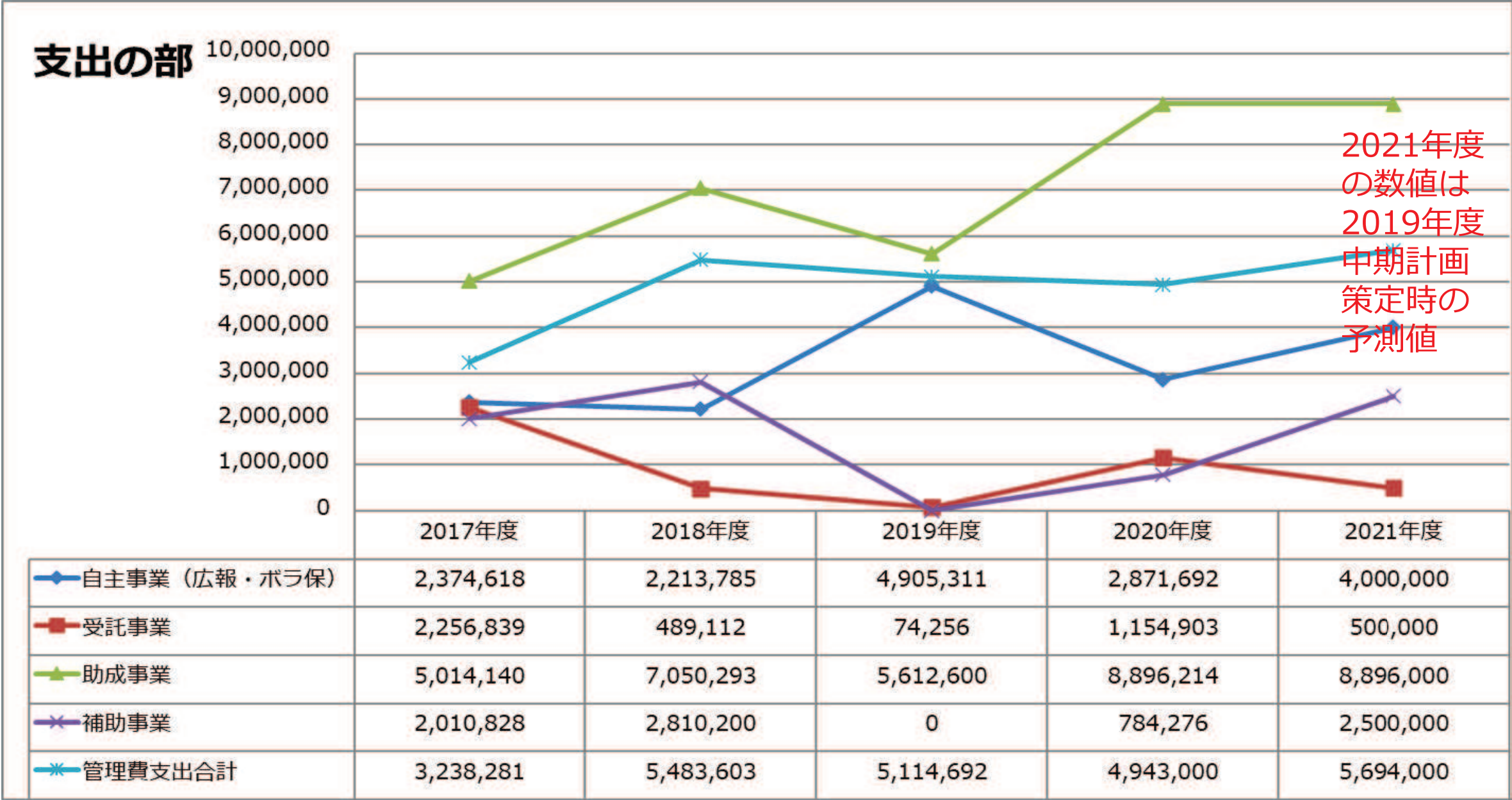
3-1 収支の推移



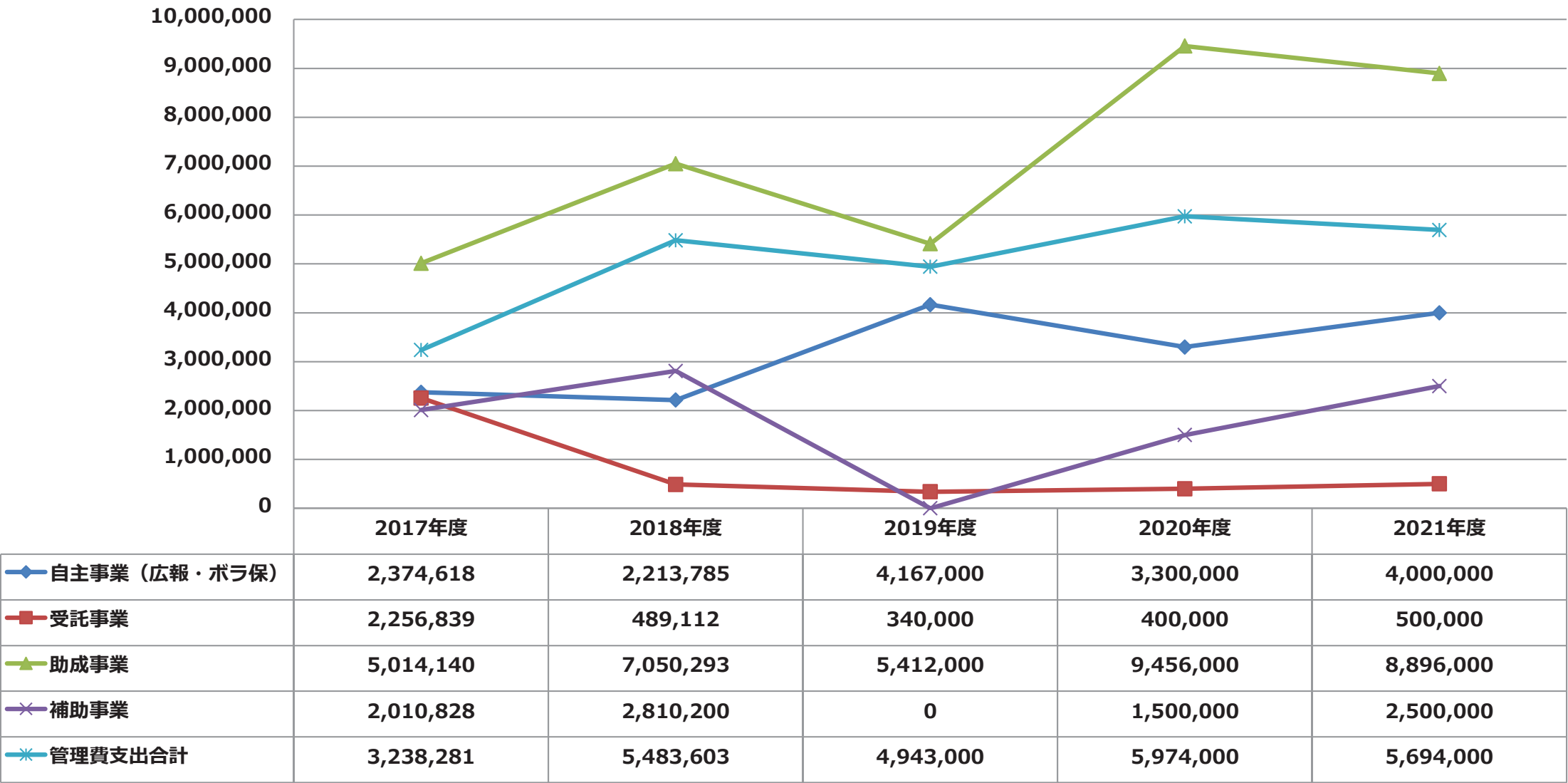
中期計画作成当初の収入計画



3-2 支出の推移

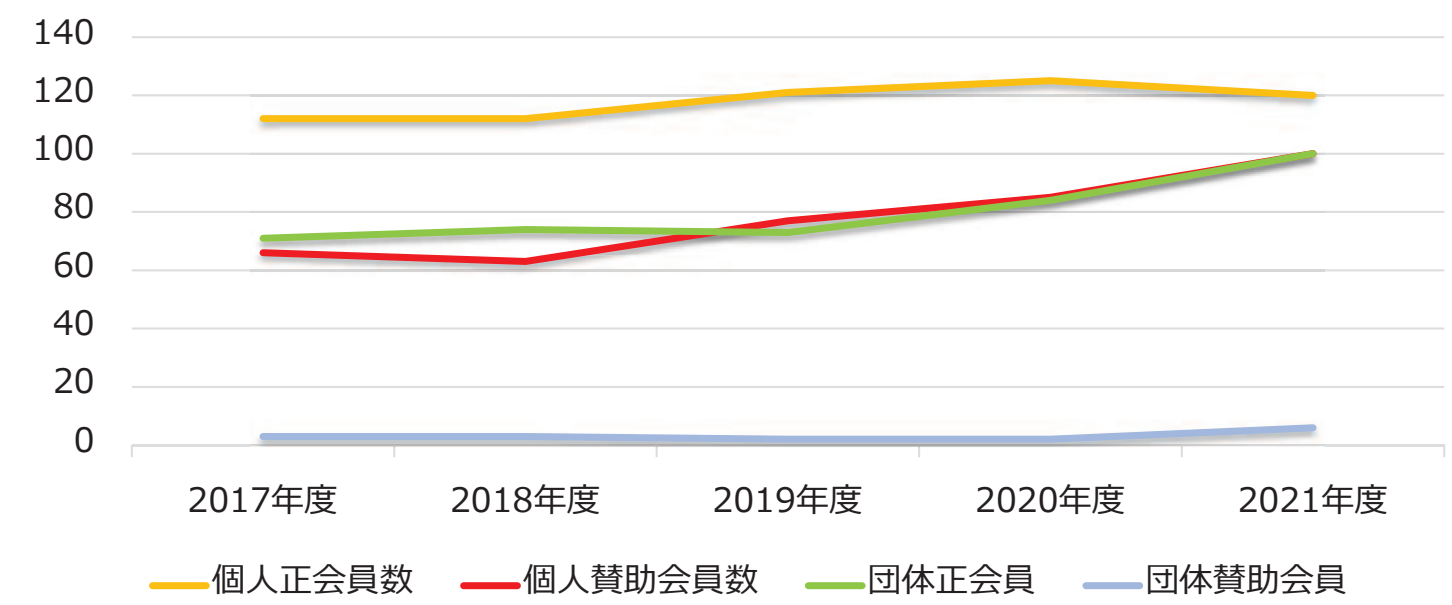


中期計画作成当初の支出計画



4-1 会員・参加者等 成果計画

会員・寄付者数



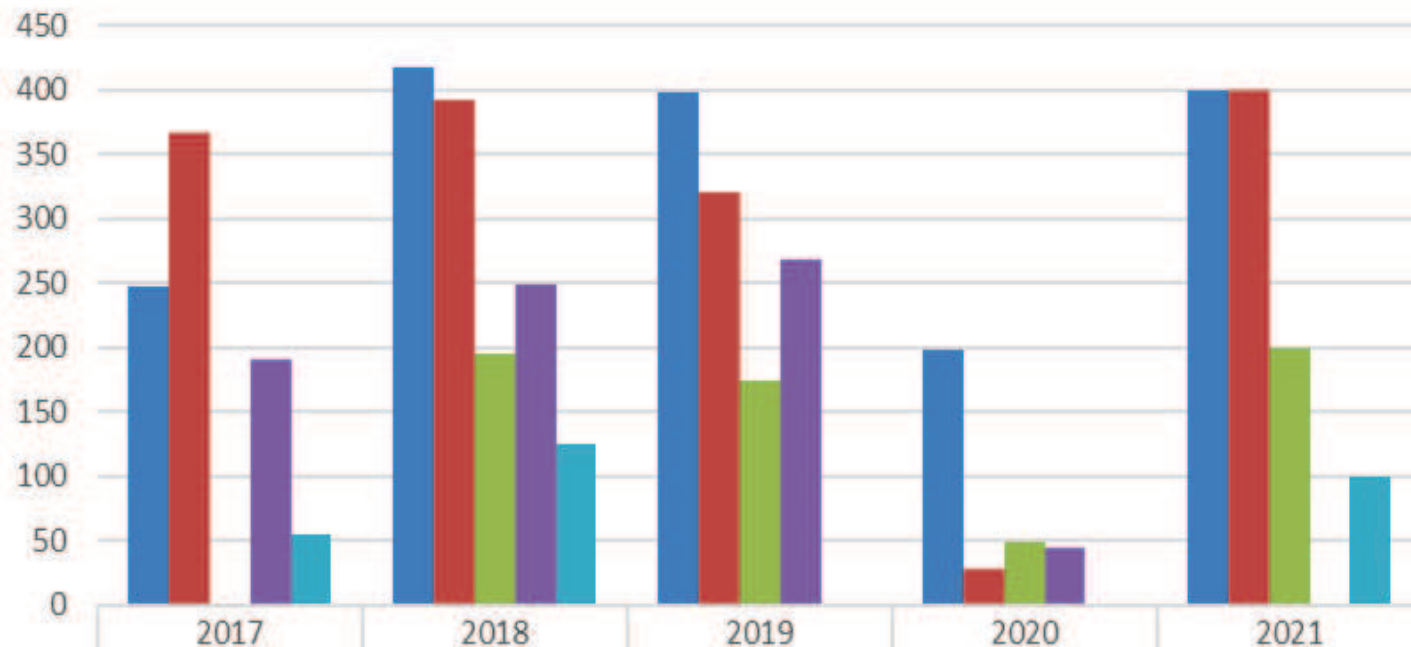
- <会員・寄付数増加に向けた施策>
- ①関係者データベースの構築
 - ②既存会員への寄付働きかけ
 - ③SEO対策
→WEB検索流入の増加
 - ③LPO対策
→入会手続きをWEBトップページで可能に、簡素化
 - ④申込みフォームの改善
 - ⑤ドナージャージャーニーの作成
 - ⑥イベント・講座・活動
参加者への働きかけ

列1	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標
個人正会員数	112	112	121	131	120
個人賛助会員数	66	63	77	84	100
団体正会員	71	74	73	86	100
団体賛助会員	3	3	2	3	6
会費合計	1490000	1501000	1547000	1647000	2080000

2021年度
の数値は
2019年度
中期計画
策定時の
予測値

4-2 会員・参加者等 成果計画

フィールド活動参加者数 推移



■フォレスト21さがみの森	248	418	398	198	400
■多摩の森・大自然塾	367	392	320	28	400
■初心者のための森づくり体験会		195	174	49	200
■木下沢溪谷冒険の森	191	249	269	45	0
■企業の森	55	125	0	0	100

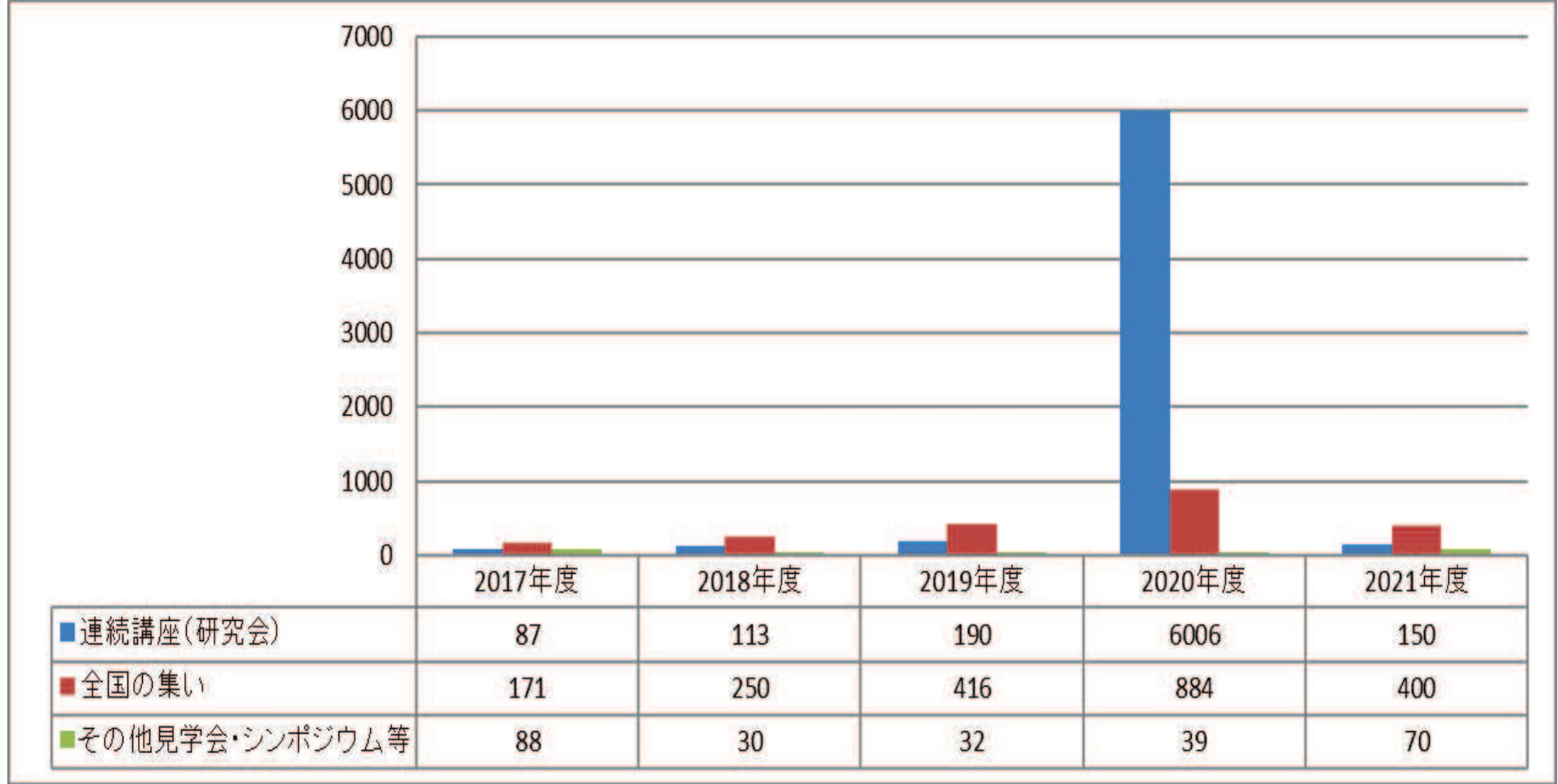
<フィールド事業 参加者増加、定着率向上への施策>

- ①活動記録データベースの構築
- ③参加者への口コミ協力依頼
- ③参加者へのアンケート実施
→課題、改善点の把握
- ④WEBページ（活動内容紹介、
申し込みフォーム等）の改善
- ⑤ターゲットの明確化
→イベントの分化
- ⑥SNS活用、他WEB記事との動線
づくり

2021年度
の数値は
2019年度
中期計画
策定時の
予測値

4-3 会員・参加者等 成果計画

講座・シンポジウム 参加者数

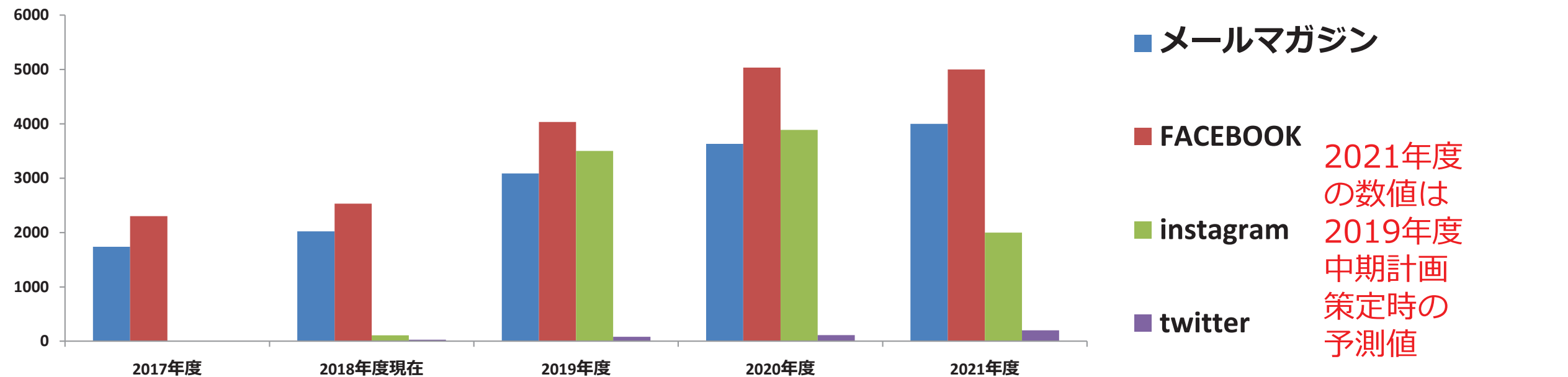


<講座・シンポジウム
参加者増加に向けた施策>

- ①出演者データベースの構築
- ②これまでの参加者アンケート
フィードバック
- ③SNS・メールマガジンの活用
- ④ターゲットの明確化
→イベントの分化
- ⑤メディア連携、他業種との
コラボ

2021年度
の数値は
2019年度
中期計画
策定時の
予測値

4-4 会員・参加者等 成果計画



各ツール名	特徴	強み	ターゲット	現在の状況	今後の施策
メルマガ	メール使用は広く浸透、情報発信、イベントPR等幅広く利用可	認知の入口、メールの使用は年齢層問わず浸透、速報性、ストーリー性	20代～80代	イベント参加・販売促進に寄与。会員、寄付獲得には現状結びついていない。	入会を促進する記事、団体支援情報を増やす、ターゲットごとの発信分化
Facebook	コンテンツ豊富、フォーマルな場、他SNSとの連携	ターゲット精度が高い、イベント・近況レポに強み	30～60代、主に高年齢層	各イベント、WEB記事、レポートなどを投稿	投稿頻度のスケジューリング、団体支援としてシェア実施
Instagram	写真・イメージ・動画の発信力、リアルタイム性も	認知向上、ブランディング、写真は世界共通言語	20～30代 海外ユーザ	11月より運用開始。活動中の写真をカテゴリー別に投稿	販売促進・通常投稿のスケジューリング作成
twitter	バズ、リアルタイム性、拡散性	即効性、情報発信	20代～50代	寄付キャンペーン時にのみ使用	情報発信力を強めるのであれば検討、Instagram連携も検討
L I N E (未利用)	国内利用者6800万 アクティブ率71%	生活浸透度、紙メディアを見ない年齢層への発信	10代～30代	未使用	未リーチ年齢層の参加者促進のため検討

5. 森とともに暮らす社会 を測る指標づくりに向けて

2020/4/1 version

目次

1. 「森とともに暮らす社会」とは
2. 「森（山）」の価値変遷
3. 今後起こりうるシナリオ
4. 立ちはだかる障壁（課題）の
整理
5. 指標の案
6. 森づくりフォーラムの取組アプローチ

1. 「森とともに暮らす社会」とは

ミッションが実現した状態の具体的な社会像

【ハード面】

森
（自然生態系）
が持続的に
維持・活用
されていくこと

○その地域の生態系が持続されている社会

すべての基盤となる自然のバランスが損なわれることなく持続してこそ、
私たちの暮らしも持続していきます。

そのため、森づくり活動においては森林だけでなく、
それを支える地域にも目を向けることが重要です。

○森と人の営みが持続的に循環し、再生産される社会

森の恵みは、木材や林産物だけでなく、人の心を癒し育む力など様々です。

また、それらは循環し、再生産可能な資源でもあります。

森の恵みが、将来にわたって享受できるようにすることは、
私たちの世代の責任です。

【ソフト面】

人
が森とのつなが
りを実感し、大
切に思い、関
わっていくこと

○人々が森の価値を理解し、積極的に森と関わりあう社会

全ての人が、森と直接的・間接的に関わっています。

森の機能や価値を理解し、森のあり方についてみんなが話しあい、関わりあい、
行動していける仕組みと機会提供が必要です。

森に人が支えられ、人が森を支える。

森づくりフォーラムがめざしてきた
「森とともに暮らす社会」とは、こんな社会です。

それは、森から流れてくる風や水が私たちを支えていることを
感じられる人間の社会であり、木がもつ力をみいだせる人間の社会です。

そんな社会をつくるために、
私たちは森のプロの仕事師や山村の人々と協力関係を結びながら、
これからも活動をつづけていきます。

—森づくりフォーラム代表理事 内山 節—

2. 「森（山）」の価値変遷

「森（山、里地・里山）」の価値変遷

	森のハード面	森のソフト面
縄文～江戸期	暮らしの需要 （食料、薪、炭、草木の利用）	自然信仰、神仏信仰 死者/自然との関係（墓所、 地蔵、塚など） お祭り・芸能
産業革命以降 （明治頃） ～2000年頃	・ 経済需要 の急激変化 （木材価格低迷/外材輸入） ・ 事業開発（林道、リゾート等）	・ 工業公害/環境汚染 問題 ・ 自然保護、ECO ・ 登山・キャンプ
2000年以降	・ 経済需要 （国産材利用、自然エネ利用） ・ 多面的/公益的機能 （水質浄化、生物多様性保全、 CO2吸収など）	・ 環境教育 ・ 健康/スポーツ ・ 参加型森づくり ・ ロハス/オーガニック/田 舎暮らし/田園回帰志向 ・ 森林浴/アウトドア

3. 今後起こりうるシナリオ

森とともに暮らす社会 シナリオ（ストーリー）のポイント

①【ハード面】

森林が
現在どのような状況で、
何が起こりうるか

②【ソフト面】

日本に暮らす人が
現在どのような状況で、
何が起こりうるか

①- (1)

森林の現在の状況

→森林率、人工林/天然林などのデータ

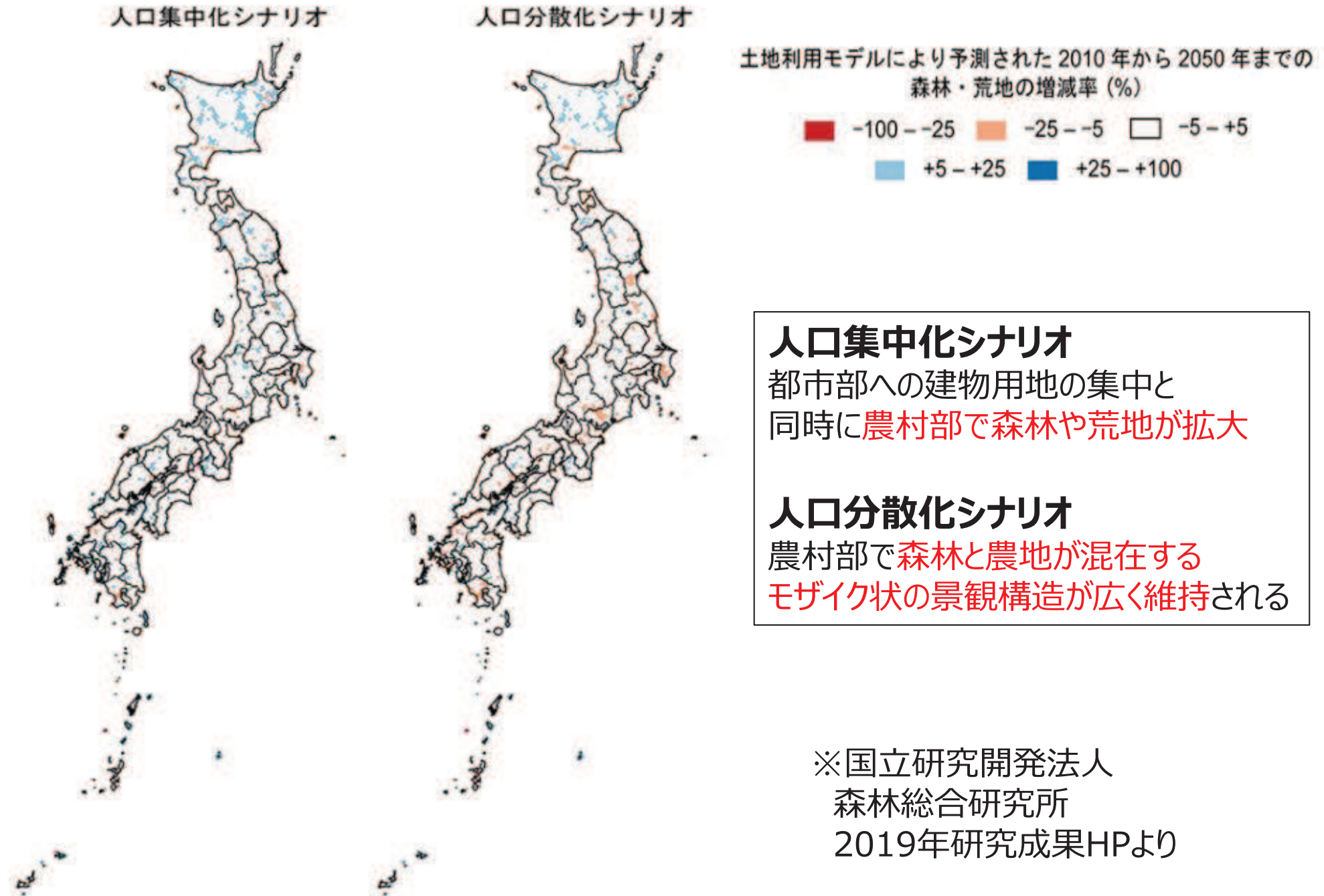
(2) 森林生態へ影響を及ぼす
可能性のある変化

→人口動態、気候変動

②日本に暮らす人が現在どのような状況で、
何が起こりうるか

→森に関する意識調査、
暮らしに関する統計データ等を参考

将来の人口減少で森林の分布はどう変わるか

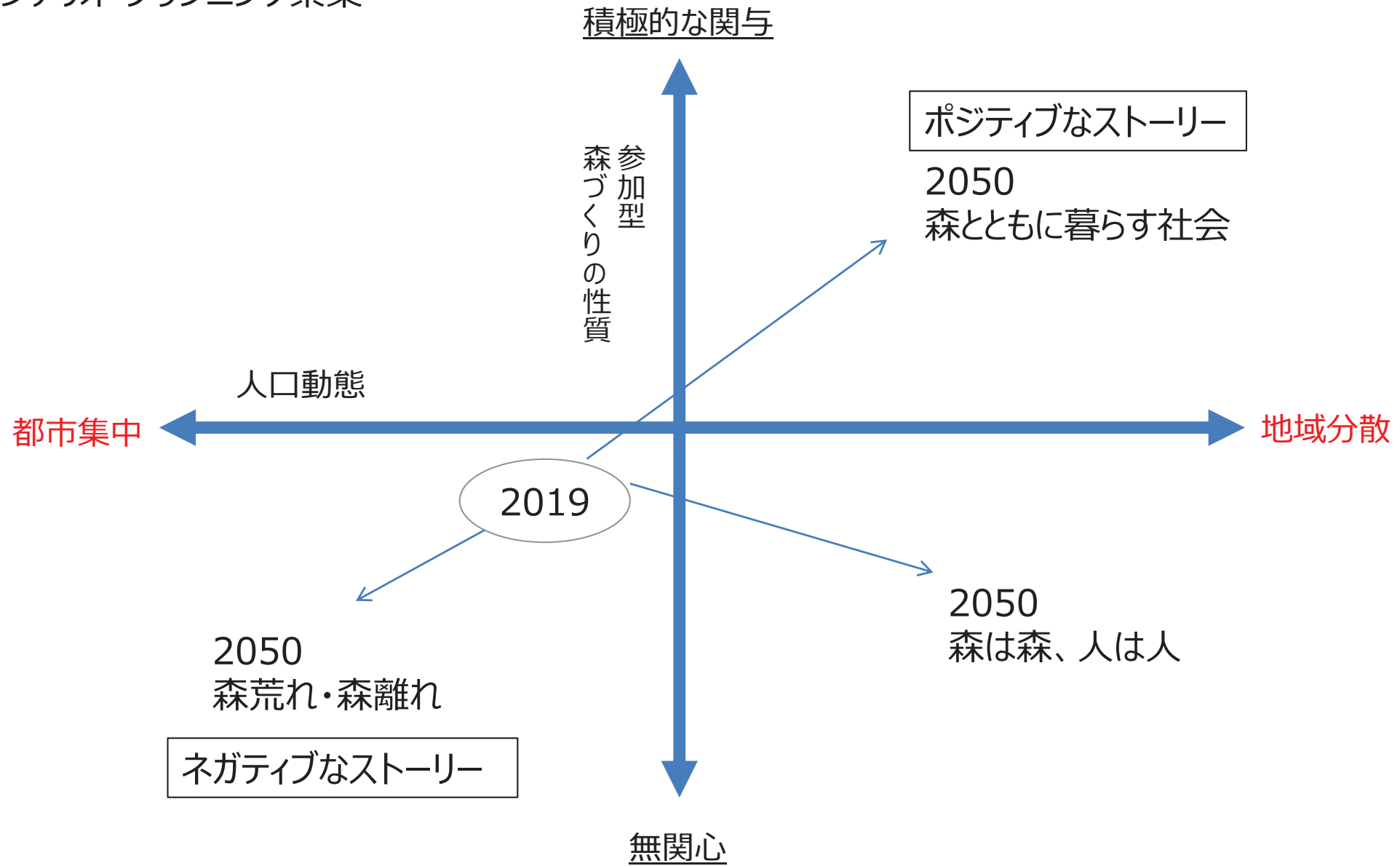


過疎と温暖化の進行がシカの分布拡大を促進する

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizen/sen/2016/20161013-01.html>

※国立研究開発法人
森林総合研究所
2019年研究成果HPより

森とともに暮らす社会 を実現するための シナリオ・プランニング素案



※ディノケン・シナリオ（南アフリカ、2009）を参照

4. 立ちはだかる障壁（課題） の整理

森のハード面/ソフト面での社会的課題

森のハード面	森のソフト面
人口減少・気温上昇	
<暮らし> ・ 安全（自然災害/事故・ケガ） ・ 自然エネ利用促進 ・ 森林資源利用（林産物、バイオマス等） ・ 森林環境税の使途	<ポジティブな傾向>→推す ・ 田舎暮らし/二拠点移住 ・ ローカルとの関わり（関係人口） ・ 地域おこし協力隊 ・ 自立的な参加型森づくり ・ 半農/半林 半X ・ 自然信仰/瞑想 ・ 環境教育/野外活動への関心 ・ 自然を活かしたDIY <ネガティブな傾向>→なくす ・ 自然/森林への無関心 ・ 地域への移民/移住者の軋轢 ・ 野外活動指導者の不足 ・ ボランティア高齢化 ・ 野外活動における安全性 ・ ケガ/病気への不安（花粉症等）
<経済> ・ 地域格差 ・ 木材の需要と生産性 ・ 担い手不足 ・ 所有放棄/所有不明/境界不明林	
<多面的／公益的機能> ・ SDGs/気候変動/生物多様性 ・ 他業種との連携・協働 ・ 複層林化の対応 ・ 植生変化 ・ 野生動物とのゾーニング	

5. 指標案

5. 指標案

森のハード面（森林生態/資源）	森のソフト面（対人/暮らし）
自然災害の増減率	中山間地域の人口率/関係人口率/年齢構成 →総務省統計から取得可
再造林率	森林・林業従事者数
国産材利用率 →森林・林業白書から取得可	森林/自然に接する頻度 森林/自然への畏敬崇拝・思い
木造住宅率	森づくり活動の参加者数 →「森づくり活動の実態調査」から取得可
薪/バイオマスボイラーの稼働率	森づくり活動団体の数 →「森づくり活動の実態調査」から取得可
薪ストーブの一般家庭利用率	
自然エネルギー発電の利用率	
不明所有林の減少率	知っている植物の数 親子野外教育の実施頻度/参加者数
生物多様性保全の度合い	森のようちえん利用者数 ウッドスタート・ウッドエンドの利用人数 竹細工など木工体験者数
	キャンパー・登山者・アウトドア層の人口率

TCVの指標も参考にする

6. 森づくりフォーラムの 取組アプローチ (ロジックモデル含む)

森づくりフォーラムの新規事業 提案アプローチ

事業三本柱	森のハード面	森のソフト面
団体支援・ 人材育成	<経済> ・担い手不足 →地域おこし協力隊員の森づくり部門の人材育成 →新たなフォレスター育成（地域づくりに森づくりから貢献できる人：小森さんのような）	<ポジティブな傾向> ・自立的な参加型森づくり <ネガティブな傾向> ・野外活動指導者の不足 ・ボランティア高齢化 →現代版グリーンカレッジ ・野外活動における安全性 →講習会の実施、講師派遣
調査・研究	<多面的／公益的機能> ・複層林化の対応 →生物多様性を高める参加型の人工林づくり	<ネガティブな傾向> ・野外活動指導者の不足 ・ボランティア高齢化 →「実態調査」の分析
普及啓発	<暮らし> ・森林環境税の使途 →東京都自治体への事業提案	<ポジティブな傾向> 環境教育/野外活動への関心 →森づくり体験会の全国展開

これまでの森づくりフォーラム



森づくりフォーラムは、関東圏の森づくりに関わる市民活動団体、森林・林業関係者のネットワーク組織（任意団体）として1995年にスタートしました。
2000年にNPO法人化して全国ネットワーク団体として「森とともに暮らす社会」を理念に掲げ、さまざまな活動を展開しました。

＜森づくりフォーラムが培ってきた実績と強み＞

- 50回以上のシンポジウム、意見交換会の実施実績
- 各地域で継続的に森づくり団体を行っている
森づくり団体とのネットワーク
- 研究者、自治体、省庁、実践者等とのネットワーク
- WEB、SNSを活用した質の高い情報発信力
- グリーンボランティア保険事業の運用・データ蓄積



ミッションが実現した状態の具体的な社会像

○その地域の生態系が持続されている社会

すべての基盤となる自然のバランスが損なわれることなく持続してこそ、
私たちの暮らしも持続していきます。
そのため、森づくり活動においては森林だけでなく、
それを支える地域にも目を向けることが重要です。

○森と人の営みが持続的に循環し、再生産される社会

森の恵みは、木材や林産物だけでなく、人の心を癒し育む力など様々です。
また、それらは循環し、再生産可能な資源でもあります。
森の恵みが、将来にわたって享受できるようにすることは、
私たちの世代の責任です。

○人々が森の価値を理解し、積極的に森と関わりあう社会

全ての人々が、森と直接的・間接的に関わっています。
森の機能や価値を理解し、森のあり方についてみんなが話しあい、関わりあい、
行動していける仕組みと機会提供が必要です。

6. 参考資料 (活動史などの中期計画資料)

NPO法人森づくりフォーラム

事業三本柱におけるロジックモデル

2020年度version

森づくりフォーラムが取り組んでいる
日々の事業活動を通じて
(団体支援・人材育成／調査・研究／普及啓発)
生まれた**成果（アウトカム）**が、

「森とともに暮らす社会の実現」に向けて
確かなステップになっているか？

それを**可視化する**ために、
ロジックモデルを導入して整理します。

ロジックモデル案

1. 人材育成・普及啓発 部門

受益対象者

プログラム参加者・森づくりフォーラム情報の受信者
・ 広く一般市民

テーマ

「More Real」

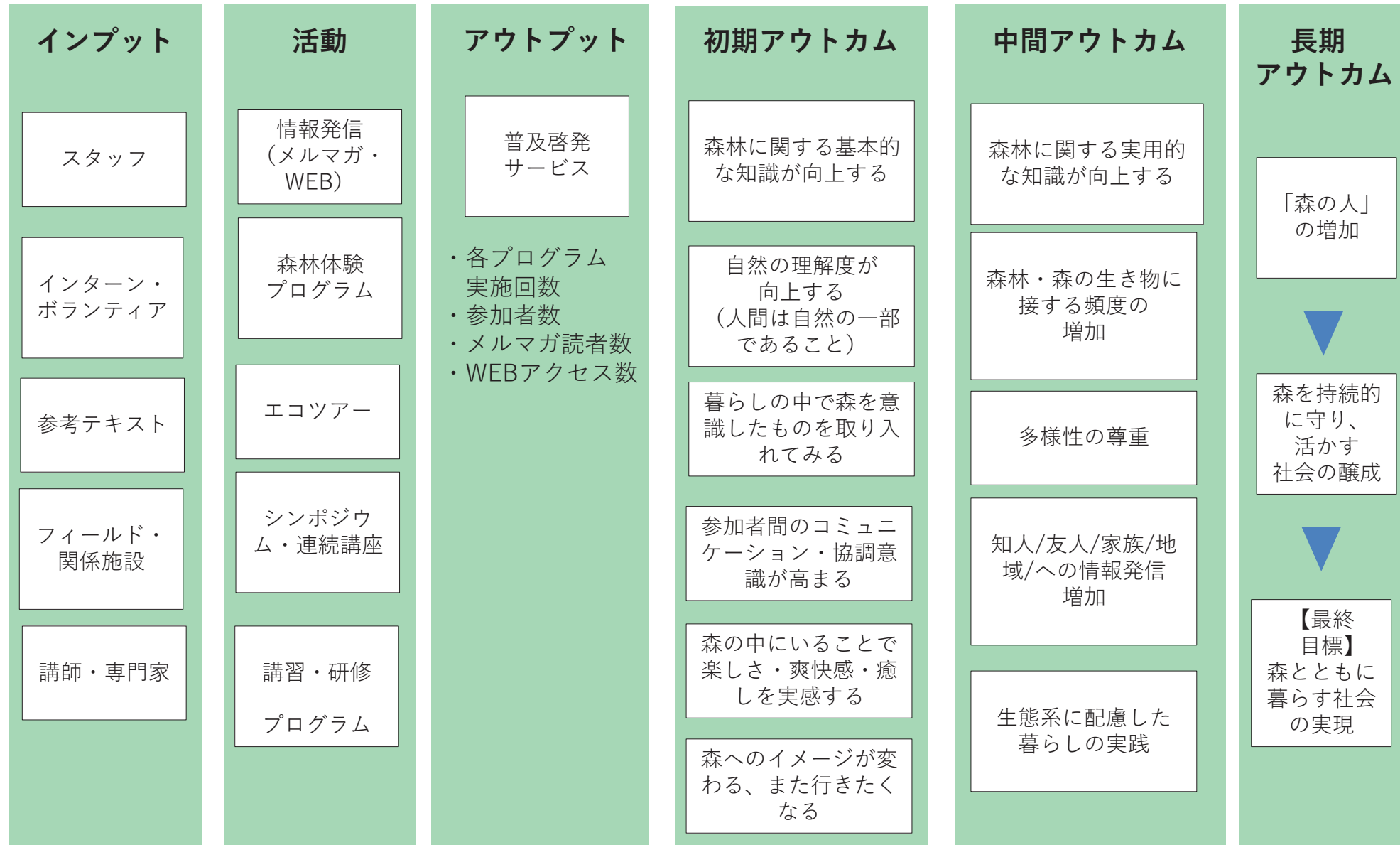
森を”リアル”に感じ、
日々森へ思いをはせながら暮らしを営む
「森の人」を増やす

1. 人材育成・普及啓発 部門

受益対象者：プログラム参加者・森づくりフォーラム情報の受信者・広く一般市民（個人）

森とともに暮らす社会を実現するためには…

→森林に関する実用的な知識を持ち、それぞれの立場から行動できる人＝「**森の人**」が必要



ロジックモデル案

1. 人材育成・普及啓発 における今後の課題

- ・ 森林の「基本的な知識」「実用的な知識」とは？
- ・ 「森の人」の測り方＝中間アウトカムを全て満たした人？
 - ・ 「生態系に配慮した暮らし」とは具体的に？
- ・ いま実施している講座・事業の参加者に何を伝えるか？
- ・ 森の現況に対する認知向上のために何をするか？

ロジックモデル案

2. 団体支援 部門

受益対象者

各地域の森づくり活動団体

テーマ

「More Leaders」

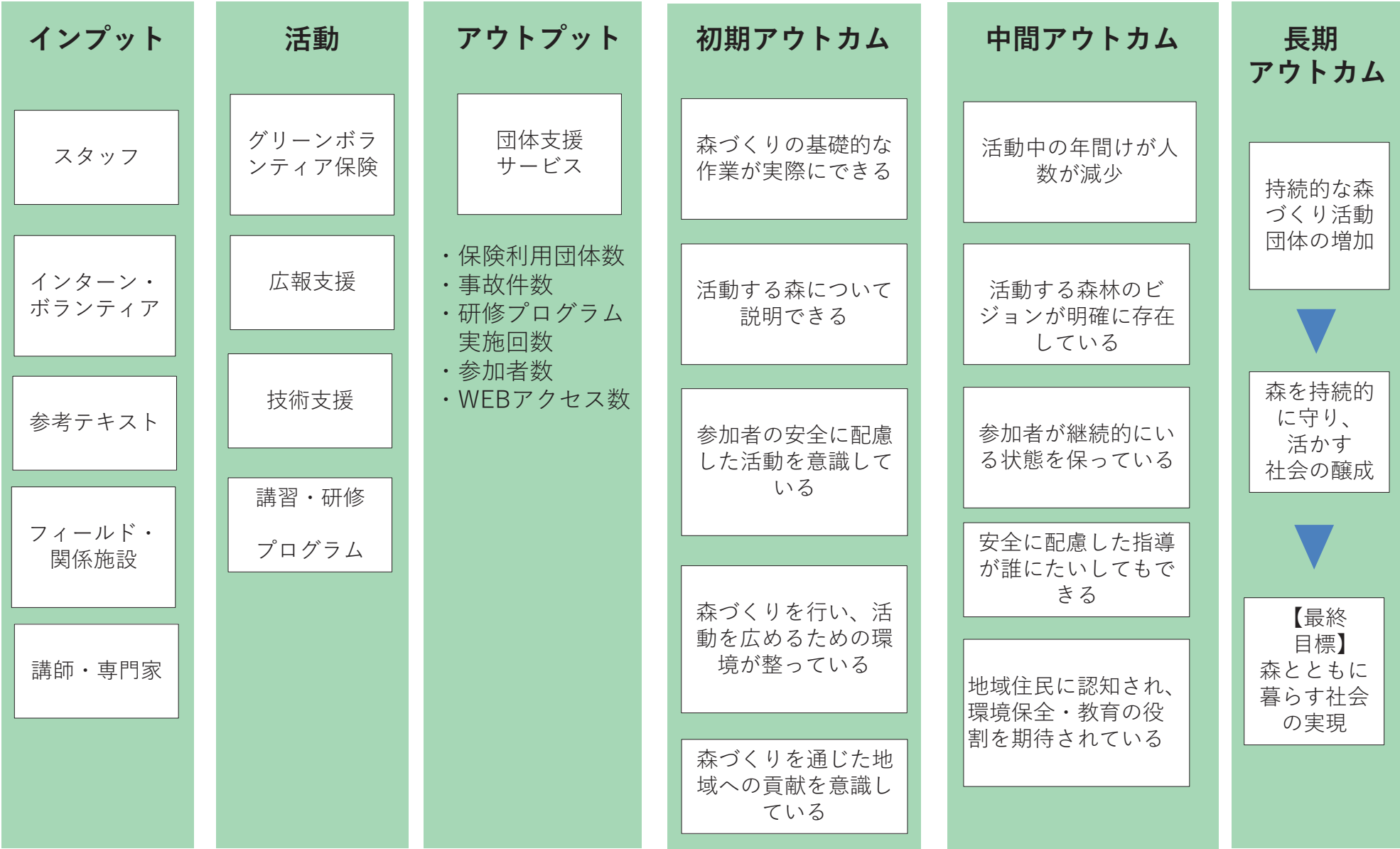
地域の森づくり団体は、その地域の住民が主体的に森に関わるきっかけをつくり、導いていく役割を担っていくことが理想。そのような団体が増えるようにサポートしていく。

2. 団体支援 部門

受益対象者：森づくり活動団体

森とともに暮らす社会を実現するためには…

→森を守り・活かす技術・知識をもち指導力のある団体が、各地域で持続的に活動している状況が必要



ロジックモデル案

3. 調査研究・政策提言 部門

受益対象者
日本に暮らす人

テーマ

「More Natural」

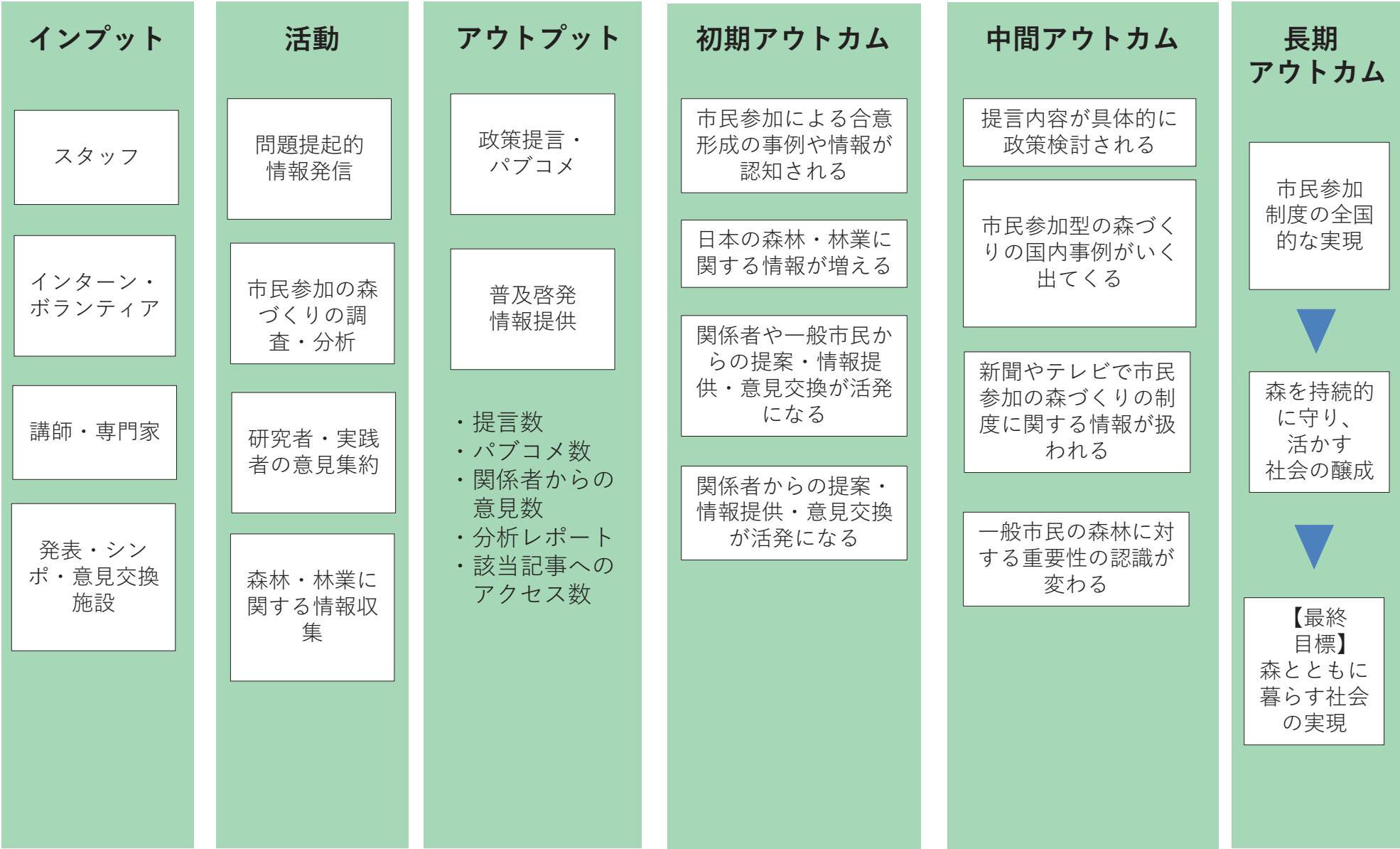
地域の森をどうしていくか、
というプランやデザインに一般市民の参加が
「当たり前」となるように社会を醸成し、
そのための仕組み・制度を実現する

3. 調査研究・政策提言 部門

受益対象者：日本に暮らす人が

森とともに暮らせる社会を実現するためには…

→地域の森をどうしていくか、ということに一般市民の参加が「当たり前」となっている





FOREST IN YOUR LIFE

- あなたの人生の中に生きる森 -

森づくりフォーラムは、市民が主体となって森林保全に関わる「市民参加の森づくり」の先駆者・導き手として、20年以上活動をしてきました。

その活動を通じて、森林・林業関係者と都市住民とを結び、森を自らが守り・活かしていこうという意識を多くの人々にひろげてきました。

そんな森づくりフォーラムがめざす、あるべき理想の姿。
それは森の中で逞しく成長し続ける、1本の樹木です。

地上では葉を、地中には根を張り巡らせ、あらゆる生態系とリンクする樹木のように、多様な人々とつながり合いながら成長を続け、多くの人に森と親しむ暮らしの喜びと憩いを届けたい。

そして活動を通じて出会い、関わる全ての人の瞳の奥に「あなたの人生の中に生きる森」が浮かぶような体験・機会提供を通じて、「森とともに暮らす社会」の実現を目指します。



「市民参加の森づくり」と森づくりフォーラムの活動史

